

第1学年 道徳科学習指導案

日時：令和4年11月10日（木）

生徒：中標津町立広陵中学校 1年B組（38名）

授業者：中標津町立広陵中学校 教諭 大槻 翔士

1. 主題名 「心の弱さを乗り越えるために」
【D-22 よりよく生きる喜び】

2. 教材名 『銀色のシャープペンシル』
(出典：「新しい道徳1」東京書籍)

3. 主題設定の理由

(1) ねらいに対する教師の捉え（指導観）

内容項目D-22「よりよく生きる喜び」とは、人間には、自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見出すことに関するものである。

1年生の段階では、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解することが少しずつできるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信をもてず、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、羨ましく思ったりすることもある。

指導にあたっては、ありのままの自分自身を見つめさせ、自分だけが弱いのではないということに気付かせた上で、心の弱さと良心の間で葛藤する主人公に自分を重ねながら、高みを目指し、弱さを克服しながら生きていくことの喜びを考えさせ、人間としてよりよく生きていこうとする態度を育てたい。

(2) 生徒の学習状況や実態について（生徒観）

弱さを乗り越えて人間としてよりよく生きていこうとする態度を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

① 日常活動の取組

日常活動の取組では、年間を通して、学習面、および生活面に関わる個人目標の設定をはじめ、定期テストの目標設定や計画立案、目標達成に向けた具体的な取組などについて指導を行っている。

目標に向かって直向きに努力できる生徒や、誘惑に負け、嫌なことや苦手なことから目を背けてしまう生徒、今何をすべきかが分かっている、なかなか前に進めない生徒など、実態は様々である。

また、普段の生活において、授業に関係のない私語や、仲間同士の度を越えたふざけ合いが目立つなど、「正しいこと」よりも「楽しいこと」が優先される場

面が多いことから、我慢をしたり、正しい行動やよりよい行動を選択したりすることが苦手な生徒が多いと感じる。

② 学校行事の取組

体育祭活動に関わる取組では、生徒指導部通信や学級通信を活用し、学級全員で大きな達成感を得るために必要なこととして、仲間のために行動することを指導している。勝敗に一喜一憂するのではなく、本番までの過程において、仲間とどう関わったか、また慌ただしい中で、自己中心的にならず、どれだけ前向きに活動できたかなどについてフィードバックさせることにより、未来の自分たちについてよりよい姿をイメージさせることができた。

(3) 教材の活用方法（教材観）

本教材『銀色のシャープペンシル』では、心の弱さを乗り越え、人間としてよりよく生きる喜びを考えさせるために、主人公が、仲間疑惑の際に自分のものだとなつきに嘘をついた場面と、卓也から謝られた後、自分の中の天使と悪魔の囁きで心が揺れ動く場面を取り上げ、主人公の気持ちの変容について考えることで価値理解を深めさせる。

4. 研究とのかかわりから

(1) 頭が動く指導過程

ありのままの自分自身を見つめさせるため、導入では、日常で起こりうる身近な質問で、本時の価値に迫りやすい雰囲気を作る。また、作られた回答ではなく、生徒の本音を通して価値を深めるため、主人公の行動について率直にどう思うか、ネーム磁石を用いて可視化し、人間誰もが心の弱さをもっているということに気付かせたい。

(2) 心が動く発問

展開後段では、卓也の家に向かう主人公の心情を考える時間を設ける。自分のずるさをごまかし、正当化してきた主人公の気持ちが最終的に卓也の家へと向かったのはどうしてかを考えさせることにより、心の弱さと向き合い、より良く生きていこうとする態度を育て、実生活に繋げたい。

5. 本時について

(1) 本時のねらい

ありのままの自分自身を見つめ、心の弱さと良心の間で葛藤する主人公の思いを考えることを通して、弱さを乗り越えて人間としてよりよく生きていこうとする態度を養う。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・予想される生徒の反応	□教師のかかわり
導入	<p>○「嘘をついた経験」について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当のことを言うと叱られそうだからついた ・その場を逃れたかったからついた ・約束を守れなかったときの言い訳としてついた 	<p>□ワークシートを配付する。</p> <p>□今日のテーマは、「心の弱さ」であることを伝える。</p>
展開前段	<p>○「銀色のシャープペンシル」の教材文を聞く。</p> <p>○とっさに嘘をついた「ぼく」の気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を守りたかった ・ごまかしてその場を逃れたかった 	<p>□資料を読み聞かせる。</p> <p>□保身のために必死にごまかそうとしていることをおさえる。</p>
展開後段	<p>○「ぼく」の気持ちに共感できるか考える。</p> <p>(共感できる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りに悪く思われたくない気持ちは理解できるから ・自分もとっさに嘘を言ってしまいたくなるから <p>(共感できない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘘は、つけばつくほど取り返しがつかなくなるから ・正直でいることが一番だと思うから <p>○主人公の選択の理由について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>「このままで本当にいいのか（天使）」が勝ったのはどうしてだろう？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・嘘をついたままは、心のモヤモヤが晴れないから ・人としてちゃんと謝るべきだと思ったから ・友達に嘘をついたままは嫌だから ・疑ったことを素直に謝ってきた卓也のように、自分もなりたいたいと思ったから <p>○卓也の家に向かって歩き出した後の主人公の気持ちや行動を考える。</p>	<p>□ネーム磁石を黒板に貼り、生徒の本音を可視化する。黒板に貼り終わった後、教室内を自由に行き来させて交流させる。</p> <p>□意見がどちらかに偏った場合は、他クラスの生徒の声を紹介し、考えを深めさせる。</p> <p>□自分のずるさをごまかしてきた「ぼく」(p110)をフォーカスし、最終的に卓也の家に向かうことを決意した「ぼく」の心情に迫る。→天使と悪魔のやりとりを想像させる。</p> <p>□生徒との対話で、主人公のさらなる心の葛藤を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>誰にでも弱さはある</p> </div>
終末	<p>○本時の振り返りと学んだことや考えたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の目盛りに変化があった場合は、色ペンで当てはまる枠に「○」を書き込む。 	<p>□「心の弱さ」とどう付き合っていきたいかをまとめさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価>【ワークシート】 教材を通して、心の弱さを乗り越えるためには何が必要かを考え、よりよく生きていこうとする意欲をもっている。</p> </div>